かつてこの地には
オーアという名の
神がいた

第1話

神は荒ぶる5匹の神獣を
それぞれ
人のかたちに変えて
国を治めるように命じた

その国の名は
シェブロン

王の両手には
オーアの姿をかたどった
しるし――ティンクチャーがあり

王が死ぬと
すぐさま同じ色の
ティンクチャーを継いだ
新しい王が誕生した

人々は
5人の王を
ティンクチャーと同じ
色の名前で呼んだ

第1話

5人の王はシェブロンを
東方、西方、南方、北方
そして中央に分け

それぞれの
領土を治めた

中でも
中央を治める王は
パーディシャーと呼ばれ

ガタッ

ガタ…

5人のうち
最も権力のある地位を
与えられていた

シェブロンには
黄金期と呼ばれる
一時代がある

それは

長い歴史の中で
唯一

『青の王』が
パーディシャーに
就任した時代である

めずらしいわね

男の子が
アジュール様に
召し上げられるなんて

カツ…

カツ…

カツ…

……

カツ…

カツ…

まもなく謁見の間です

部屋に入ってもシャーのお許しがあるまで顔を上げてはなりませんよ

ああ あのシャーって誰でしょうか？

え？

すみません俺……奴隷だったので何も知らなくて

キラ…

シャーとはお仕えする王の敬称です

この国は
5人の王が
治めておいでです

わたくしたちは
青の王の
アジュール様に
お仕えしているので

彼の方をシャーと
お呼びしています

ヒソク様も
同じように
なさってください

王宮には
他に3人の王が
お住まいです

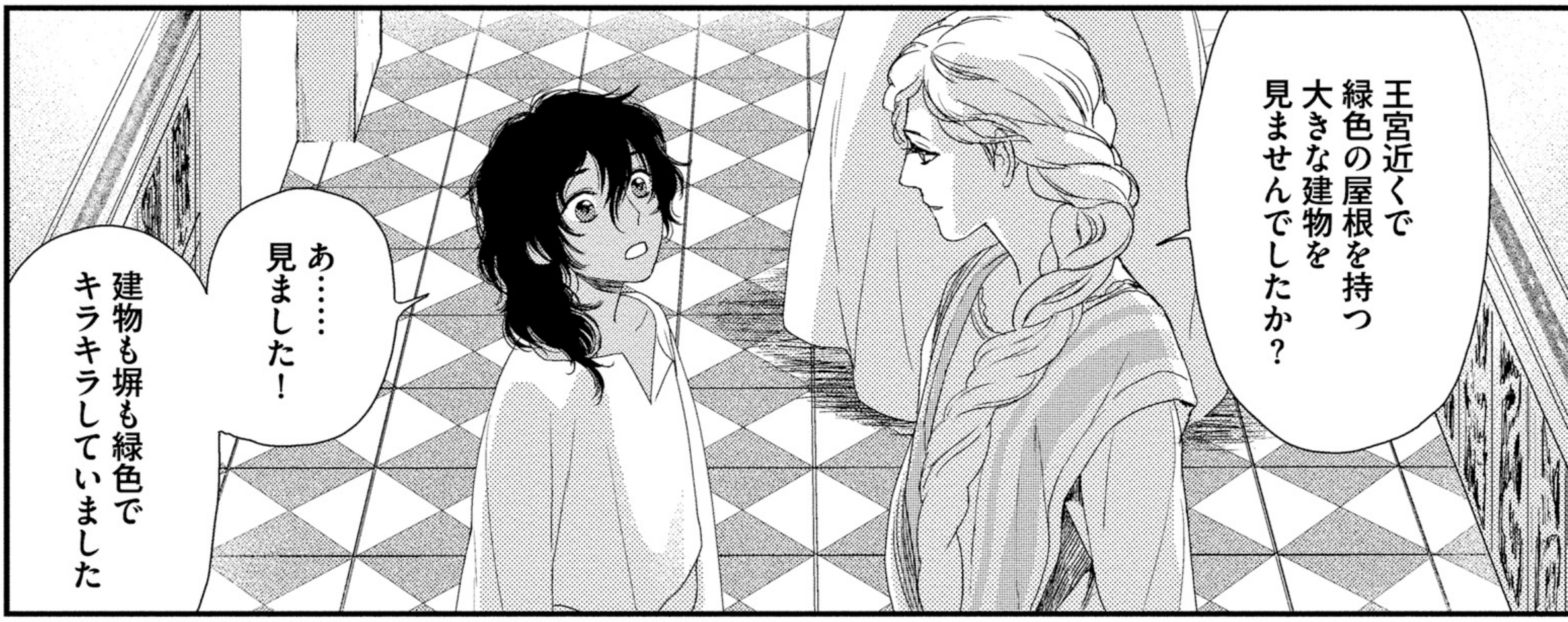
ギュールズ王は『赤の方』
パーピュア王は『紫の方』
セーブル王は『黒の方』

シャー以外の王に
お会いすることがあれば
そうお呼びしてくださいね

みんな
色の名前がついて
いるんですね

ええ

あの
もう1人の王は？
王宮には
いらっしゃらない
のですか？
緑の王のヴァート様は
王宮の外に
住まわれています


王宮近くで
緑色の屋根を持つ
大きな建物を
見ませんでしたか？
あ……
見ました！
建物も塀も緑色で
キラキラしていました

それが
緑の宮殿です
どの宮殿も
王にちなむ色が
使われているんですよ

ここは
青の宮殿なので
天井や床が
青いでしょう
以前は壁も青く
塗られていました
今は
白いのですね

……数年前に
大きな改築があって
白く塗り直されたのです

5人の王はそれぞれ
王たる証(あかし)をお持ちです

シャーに
お会いしたら
手の甲を……

ルリ様……！

あちらから
緑の方が…！

！

そんな
何故ここに…

ヒソク様
隠れてください

見つかると
まずいことになります

おい！

今何を隠した

な、なんでもございません

答えぬか！

どうぞお許しください…

きゃっ！

ルリ様！

——下女が生意気なわしを出し抜こうなんて浅はかだったな

ほう
エメラルドの目を持つ者か

肌の汚い子どもが持つには不相応な宝石だ

この緑の目がわしのものになりたいと言っておる

緑の方おやめください！

その者は白の女ではありません
アジュール様が召し上げられた青の姿です

緑の方といえど他の王の所有物に手を出せば厳罰に処されます

青の姿だと？

この身体のどこにしるしがある？

羽のティンクチャーが無いうちは『白の女』と同じ扱いだ

わしが連れ帰ろうとアジュールも文句は言えまい

そんな……！

うるさい女だ

切れ

ぐっ!!

なっ！

浅黒い肌だな

たまには奴隷の子どもで遊ぶのも気晴らしになる

ああああああ

ルリ様!!

やめてください！

俺はどうしても青の王と会わなくてはいけないのです！

ここから連れ去られたら困るんです

だまれっ

……っ

ヒソク…様…

しぶとい下女だまだ生きているのか

うん？ヒソクといったか

どこかで聞いた名だな

西方に未来を視(み)ることができる術師がいるという話だが

まさかおぬしが『星見(ほしみ)のヒソク』か？

ははは、ふははは
これはいい
どうりで女好きのアジュールが子どもを呼び寄せたわけだ
うわさの星見を取り上げてやったら随分とあいつも悔しがるだろ―
ぐ、
かはっ

ビュッ

緑の兵を押さえろ
抵抗するなら
殺してもかまわん

ファァァ

女相手に
致命傷すら
負わせられないとは

さすが
緑の兵はぼんくらだ

緑の方が
ルリに無体を
はたらいたから
といって
殺すことは
許されません

フン

胸糞の悪いヴァートを
殺れる機会を
みすみす逃す気には
ならなかっただけだ

ご冗談でしょう

この人が

青の王…？

冗談だ
私もヴァートと
心中する気はない

セーブルあたりに
気づかれる前に
手を打つ

——それで？

おまえは何者だ？

私が呼び寄せた
ヒソクという星見は
女だ

ザわっ……

ヒソクは……
俺の妹です

どうか
妹を召し上げることは
やめてください

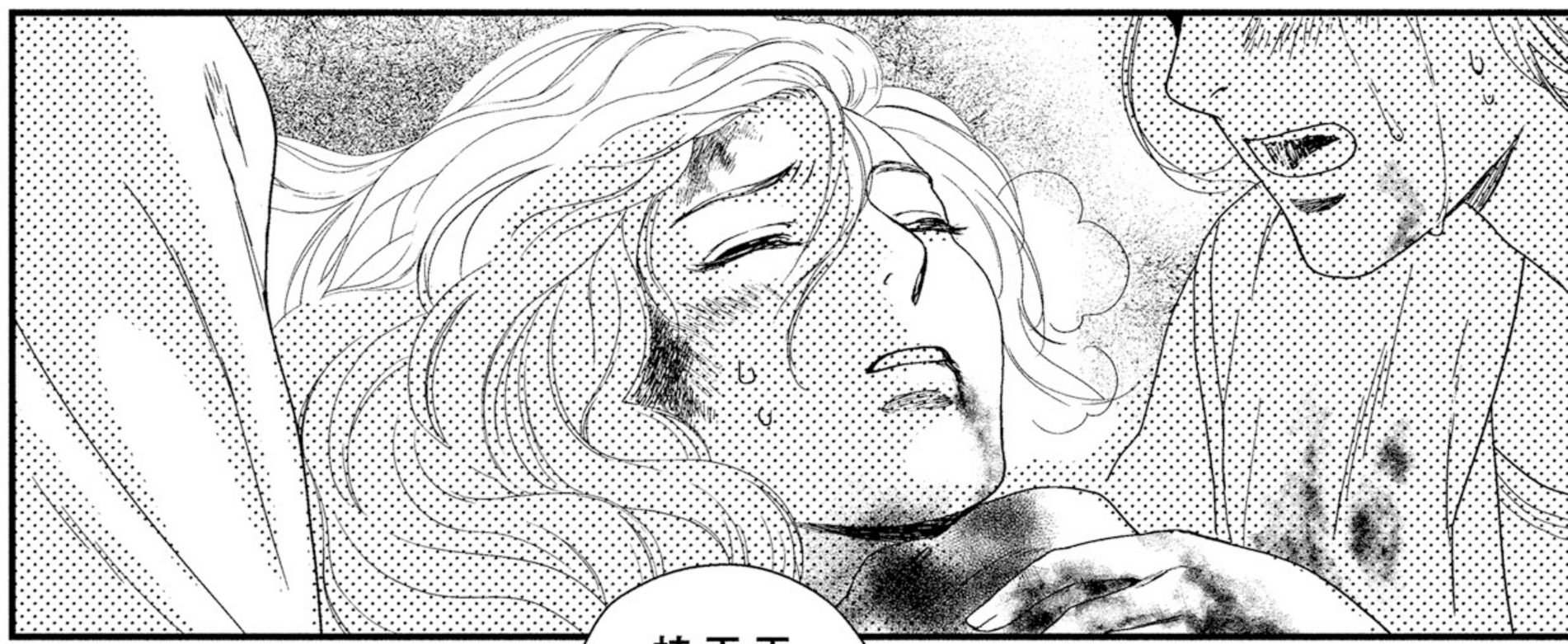
召し上げられた術師は
側女(そばめ)のように扱われ
一生 王宮から
出られないと聞き
妹が
不憫で
このようなことを
しでかしました

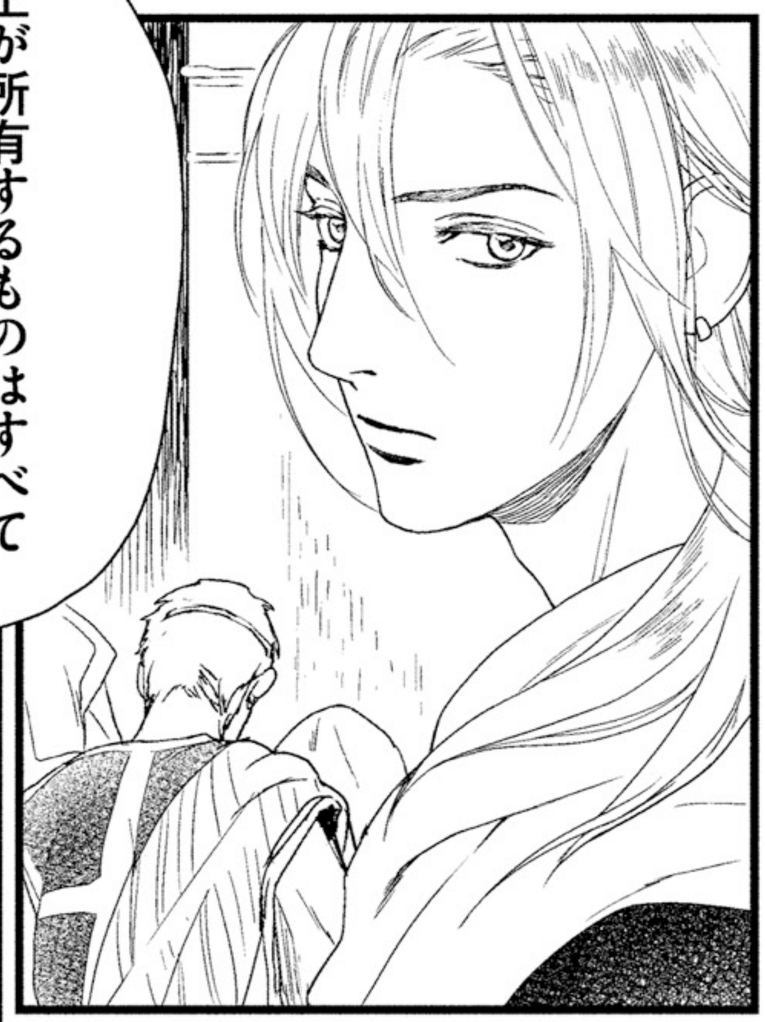
親も無く
楽しいことも
知らずにいます

どうか
ヒソクにだけは
慈悲をかけてください

すぐに投げだせる命で
この事態を償って
思いどおりになると
思っているのなら

私も
ずいぶんと軽く
見られたものだ





王が所有するものはすべて
王が生殺与奪の権利を
持っている

私は侍従を傷つけられて
許したことはない

…っ

意味のない命でも
妹以外のために
投げ出そうなどとは
思いません…

俺の生きる意味がヒソクにあると思ったから

こうしてお願いにあがったのです！

命乞いに来た者が口答えとは驚く

スッ…

その服門番に側女と間違えられたか

シアン

星見として迎え入れると伝えておかなかったのか

別の者に頼まれたのでは？

私は星見を迎え入れるのは青の宮殿に火種を呼び寄せるようなものだとシャーに申し上げたはずです

そうだったか？

——おまえ

妹のためならなんでもする覚悟があると言ったな

ありります！

では今すぐ私の所有物になれ

……所有物

不服か？

死でも
奴隷でもいいと
言ったのはおまえだ

シャー 何を
お考えなのですか

名案だと
思わないか

ヴァートが
青の王の所有物に
手を出したとなれば
あいつを殺した口実になる

おまえの名は？

名前…

二度と
使うことは無いと
思っていた…

俺の名前は

セージ

セージ
行かないで

外に出たら
悪いものに
食べられてしまう

すっ

ぐすっ

俺たち兄妹は
西方の町で
奴隷として働いていた

ここにいよう…

ララ…

家の主人には
少年趣味があり

ヒソクはよく
主人が来る前に
泣き出すことがあった

泣きじゃくる妹を
あやしながら

俺は今日も主人が
呼びに来ることを
知った

東の方で
怖いことが起きるよ
牛と蛇が戦ってるの

ヒソクは不思議な
子どもだった

遠くの戦を
察知したり
疫病を予知し、

それは
「勘のいい子ども」
という括りを
超えていた

しばらくして俺たちは
街はずれの貧民窟に住む
ごろつきと出会った

術師の真似事をしていた
彼らは

ヒソクの才能に
目をつけたのだ

『星見』をうたって
働かせると

ヒソクはたちまち
評判になった

ある時、
『星見のヒソク』を
召喚するという
連絡がきた

うわさはやがて
王宮にまで届き

『星見』は
王や貴族に
重宝されるんだ

ただし
召し上げられたら
最後

側女にされて
二度と自由には
なれないそうだよ

俺は
彼らに妹を連れて
逃げてくれるように頼み

ヒソクのふりをして
王宮へ行くことにした

時間を稼がなくては
ならなかったからだ

一緒に
逃げたところで

王宮の追手が来れば
すぐに捕まって
しまうだろう

俺は

おまえを守るためなら
なんだってする――…

ヒソク…

うまく逃げられて
いるかな…

子どものくせに
ずいぶんと
手慣れているな

息を
吸い込んでみろ

ドン

は、あっ

アンバルは
初めてか？

動物の分泌液は
甘ったるくて
腰にくるだろう

じきにその高い自尊心を
かなぐり捨てて
すがりつくようになる

自尊心、なんて
無い、です

挑発にのってすぐ言い返すところがその証だ

グッ

はあ

あん

……?!

急に身体が熱くなってく…?!

いい

こんな感覚…はじめてだ…

気持ちいい…

クッ

ずいぶんと楽な道が残っていてよかったな

「死か 奴隷」と言ったか

ギッ

ヴァートの言うことも
あながち間違いでは
なかったな

この緑に
上目づかいで見られるのは
悪くない

なんだ？

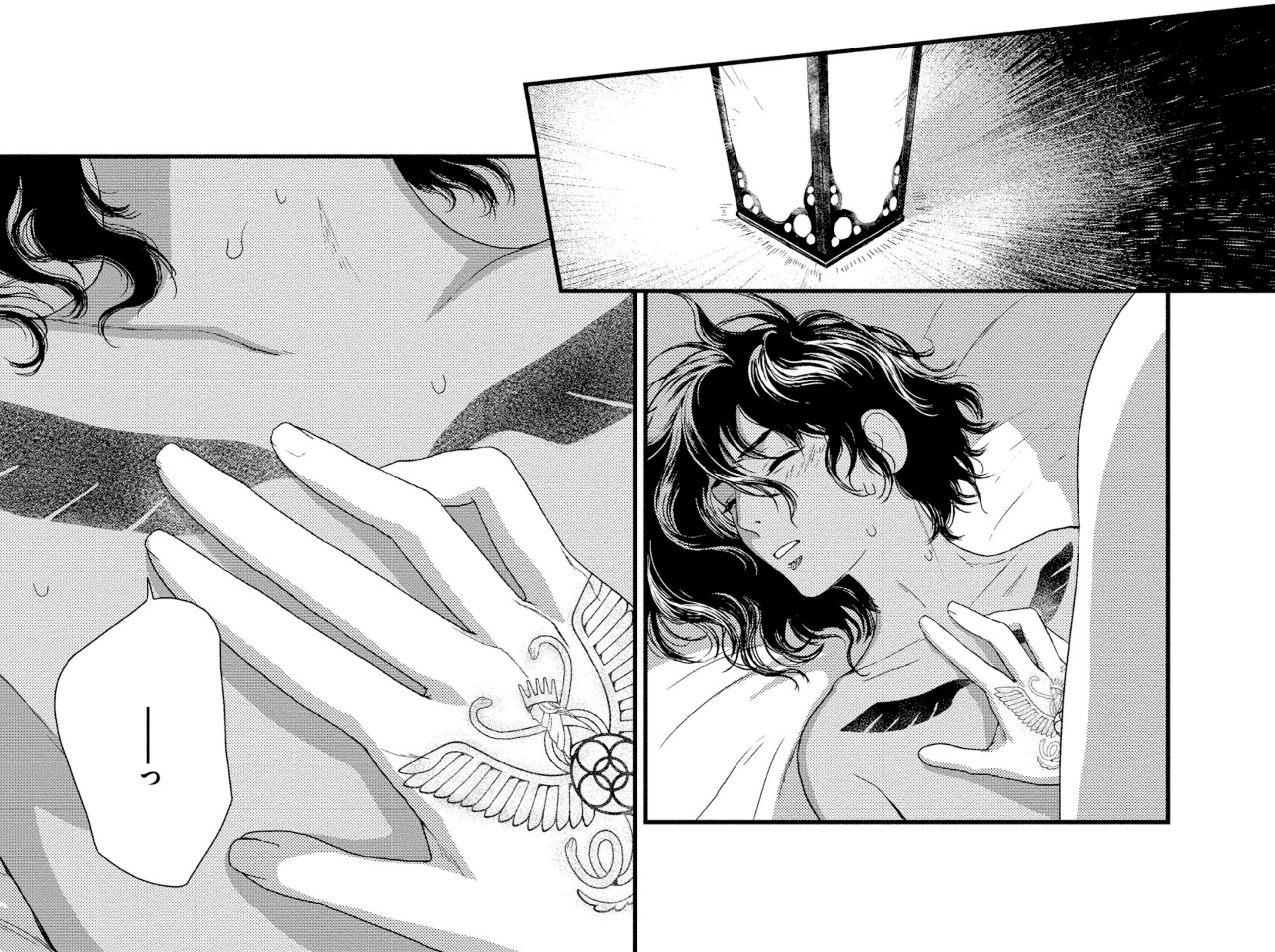
胸が焼けるように
熱い……

じっとしていろ

ガッ

——…っ

痛みを感じるのは
一度目だけだ



羽のティンクチャーといって王の所有物になった証だ

他の王がこれにふれれば反逆とみなされる

抱いた直後はくっきりとしているがだんだんと薄れて40日ほどで消えるだろう

ギニッ

しるしの消えた女は白の女といって誰に手をつけられてもかまわない存在になる

誰かれかまわず抱かれるのが嫌なら

青の術師としてそれらしく振る舞うことだな

術師……？

コト

おまえはこれから
星見を名乗り
青の術師
ヒソクとして生きろ

ヒソクが
女だと知る者は
少ない
俺が
星見…?!

でも
…俺には妹のような
能力はありません
星見のふりをする
なんて無理です

無理かどうかではなく
妹の命にかけてやり通せ
そんな…

妹を助けられれば
死すら恐ろしくない
と言ったな

その約束を果たすのが
おまえの務めだ

ではっ

やりとげれば
妹は見逃して
いただけますか

そういう
さかしい物言いは
私の好みではない

覚えておけ

私の機嫌を損ねて
痛い思いをするのは
おまえのほうだ

バサッ

しるしが
消える前に
抱きに来る

そのつもりでいろ

…俺が
ヒソクになる…

これが一番
良い方法なのか
わからない

でも…

ぎゅっ

俺が
おまえを守るよ
ヒソク